

JAFTMA

JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

令和4年1月31日 発行 第85号

2022年日釣工会長挨拶

釣りの変わらぬ価値と次世代の魅力をグローバルに発信



一般社団法人
日本釣用品工業会
会長 島野 容三

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

旧年中は（一社）日本釣用品工業会（日釣工）の活動に、多大なるご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

昨年に引き続き、いまだ世界中が右往左往しているコロナ禍の話題からご挨拶いたしますことを、大変心苦しく存じます。さまざまな感染防止施策や規制、ワクチン接種に加え、マスク着用を遵守する国民性は相応の効果があったという専門家の意見。また、特効薬の研究開発など前向きな状況の一方で、まだまだ不確定要素があるのも事実です。その中で、第6波に備えた3回目接種や病床と医療従事者確保等、考えられる轍を踏まない策も進行されております。

そのような状況ではございますが、明るい兆しが見え始めている部分もあると申し上げても、そろそろ差し支えないのではないのでしょうか。医療従事者の方々の多大なるご尽力はもちろん、各種産業や文化・芸術、行政などあらゆる分野で現状を打破するアイデアやルールが検討構築され、その結果としてさまざまな、こんな時代だからこそ“新しいノーマル”というものも確立されつつあり、人間の創意工夫と底力を再認識せざるを得ません。私ども釣具業界におきましても、密を避けるアウトドアスポーツとして、ファミリーや若者層など新たな釣りファンが拡大するというニュースもありました。これら新規参入者に対してより一層の魅力をアピールし、継続・拡大に繋げていくことが最大の課題であります。

そして、初心者の増加に伴うルールやマナーの啓蒙も含め、釣りを文化としてさらに成熟させていく努力が不可欠であることを、改めて業界全体で心に留めていくことが肝要であろうと存じます。

私ども日釣工が推進しております「つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業」も、2013年の立ち上げ以来、いよいよ記念すべき10年目を迎えることとなりました。釣りの未来を拓くための社会貢献事業を通じ、全国の自治体や漁業関係者さまとの信頼関係構築に努めてまいりましたが、その地道な活動も着実に根づいてきたことを実感しております。

優先事業のひとつ「水中クリーンアップ活動」につきましては、昨年は1道24県38箇所にて延べ181日と、実施最多日数を更新いたしました。新規釣りファンの増加という朗報がある一方で、前述しましたように残念ながらゴミ捨てや立入り禁止場所への侵入、路上駐車といったマナー問題が顕在化してきたという事実もあり、日釣工といたしまして、この取組の重要性と意義を改めて強く認識している次第です。

「放流事業」では、2019年までの累計が200万尾のところ、2020年に一気に700万尾を放流し、昨年も秋田、新潟、神奈川、静岡、滋賀、大阪、山口、長崎、熊本、大分、宮崎の11府県で、マダイ、ヒラメ、ホンモロコなど全9魚種、700万尾を超える稚魚放流を実施、累計で1600万尾を超える実績となりました。ワカサギ釣り場の安定・拡大に向け水産庁後援事業として進めております「内水面釣り場拡大」事業におきましても、支援した増殖施設を活用いただき、ふ化率の向上が確認されるなど、各地でワカサギ資源の安定拡大に貢献。さらには地球環境基金との協働により水辺の環境保全活動を行う諸団体を支援する「LOVE BLUE助成」、全商品に添付をお願いしております「環境・美化マーク」につきましても継続的に実施しております。釣具店さまにおかれましても、引き続きご協力を賜りお力添えいただけますよう、改めてお願い申し上げます。

さて、『釣りフェスティバル2022』は1月21日（金）～23日（日）の3日間、本年も再びオンラインを活用して開催いたします。初めてのバーチャルの試みとなった昨年は、2月末までのアーカイブ配信を含めると、国内はもとより世界約100カ国・266,367人、累計500万回を超えるという、当初の予想をはるかに上回るアクセスを記録。時空を超えた発信から得られた大反響に、対面でのリアルな反応を実感できないという不安を払拭して余りある手応えを実感することができました。今回も各社新製品や最先端技術の紹介をはじめ、トップアングラによるライブステージや実釣プログラム、人気の「クール・アングラーズ・アワード」「アングラーズアイドル2022」など、豊富なコンテンツを配信。また新たに、潜在層へのきっかけづくりとなる「釣りキャンプ特集」や、ビギナーにも身近な魅力をアピールする「あなたの町の釣具店」、まさに世界に向けてわが釣り文化を発信する「日本の釣り」など、オンラインならではの特性を遺憾なく発揮した充実の内容をお届けいたします。

どんなに時代が変わり進化するとも、リアルな大自然に身を置き生きた魚と対峙するという釣りの本質、価値は変わりません。しかしながら、その魅力をより多くの人々に伝え広めていくために、常に時代や環境に応じ適したやりかたを模索していくことは、私ども釣具業界にとっても不可欠の課題です。釣りフェスティバルは、もはやかつての日本の釣具ショーにとどまらず、グローバルな情報発信の場へとその役割を拡張しており、今年もさらに海外向けの対応を進めてまいります。日釣工といたしましても、環境保護活動をはじめとする社会貢献事業、イベント、広報など、時代に即した方策を構築しながら、皆さまと共に、釣り文化のさらなる深化と熟成に努めてまいります。

日釣工は本年も、釣りレジャーの地位向上のため、社会と共生できる釣りを目指し、環境に配慮したものづくりをはじめとして、国民生活を豊かにする釣りの創造に積極的に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

島野会長年頭の挨拶	P.1
釣りフェスティバル2022 オンライン開催報告	P.2
ロイヤルアングラ賞2022 由良 拓也 様	P.4
LOVE BLUE委員会からのお知らせ	P.5
規格・安全委員会からのお知らせ	P.7
広報・組織委員会からのお知らせ	P.7
海外戦略プロジェクトからのお知らせ	P.7
第37回理事会報告	P.8
会員情報	P.8
事務局だより	P.8

目次

釣りフェスティバル Fishing Fest. 2022 ONLINE

釣りフェスティバル2022オンライン 開催報告

釣りフェスティバル2022は、新型コロナウイルス感染の終息が見通せない中、関係者皆様の安全と安心を最優先に考慮し、昨年に引き続き、オンラインでの開催を行いました。オンライン開催のメリットを最大限に活かし、日本全国はもとより、世界の釣りファンにいち早い製品の最新情報やトレンドを発信しております。また、既存の釣りファンだけではなく、潜在層（釣りをやってみたいと思っている人、釣りを始めたばかりの人）に釣りを始めるきっかけ作りと釣りをもっと好きにさせる有益な情報提供を行っており、3日間のオンライン開催では、パシフィコ横浜特設会場から様々なプログラムのライブ配信を実施いたしました。

2022では、89社・団体にご出展いただき、1月21日（金）～23日（日）の3日間で、訪問者数145,271名、ページビュー数2,128,245のご視聴をいただきました。ご覧いただきました皆様、ご出展いただきました皆様、ご出演いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。釣りフェスティバル2022は、アーカイブ配信を実施しており、2月末日までご視聴いただくことが可能です。

「釣りフェスティバル2023」は来る2023年1月20日（金）～22日（日）にパシフィコ横浜での開催が決定しております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

クールアングラーズアワード2022 前田 敦子さん

広く釣りファンの拡大に貢献した著名人を対象に、Sports Fishingを愛し、Sports Fishingの魅力をさらに広める著名性を持ち、さらにはSports Fishingの魅力を新しい時代感覚の中で体現されている方を、「クール・アングラーズ」（カッコいい釣り人の意味）として表彰し、讃え、多くの皆様にご紹介しようという企画です。



右 前田 敦子さん
左 塩澤 直人 JAF実行副委員長

第13代アングラーズアイドル 神野 梓（じんの あずさ）さん

神野梓さんは、先の見えないコロナ禍においても、人とのつながりを大切に、持ち前の明るさで力強く道を切り開いてきました。最終審査においてもしっかりと自分の今後の目標を宣言する姿に強い情熱と可能性を感じ、釣りの魅力を世の中に広く発信する象徴として活躍していただけるものと思い、第13代アングラーズアイドルに選出いたしました。



ライブステージコンテンツの紹介（一部分）



見どころ紹介



釣りキャンプ



新製品紹介



トーク&ライブ



キャストイングライブ



釣りトレンド2022

ロイヤルアングラ賞2022 レーシングカーデザイナー 由良 拓也 様

当工業会では、2008年度から経済・文化・芸能・スポーツ等の各界でご活躍されている方々で、釣りに対して造詣が深く、趣味として愛好されている方々や、釣り及び釣り文化の発展に寄与されている方々の中から毎年ロイヤルアングラとして、選出させていただいています。今まで37名の方々に受賞いただいております。

2022年は、レーシングカーデザイナーとして世界的に著名であり、モータースポーツの最前線で常に活躍されながら、マリン関係でも多くの商品開発も携われ、釣りを愛し、釣りへの造詣が深く、多くの方に釣りの魅力を発信されている由良 拓也 様に受賞していただきました。

由良 拓也 様 略歴

レーシングカーデザイナー、インダストリアルデザイナー。ムーンクラフト（株）取締役社長。1951年東京都生まれ。高校時代からレーシングカー製作の世界に入り、1972年フリーでレーシングカーのデザインを始める。「彼には空気が見える」と言われるほど、その作品はエアロダイナミクスの完成度が高いという数々の評価を受ける。1983年、デザインしたマツダ717-Cが、フランスのルマン24時間レースで日本車初のクラス優勝を獲得する。1984年、ネスカフェゴールドブレンドの17代目「違いのわかる男」としてテレビCMに出演。今も現役で、レーシングカーのデザイン・開発やレース解説などモータースポーツの第一線で活躍中。



釣りを始めたきっかけ、エピソード

僕の釣りのルーツは小学生のころ、近所の碑文谷公園でクチボソ釣りをしたのが始まりだったかな？家の横の呑川で赤むしを取って空き缶に入れて竹竿担いで通ったものでした。池に落ちて溺れてから暫く釣りとは遠ざかっていましたが、御殿場で仕事を始めてから、冬の早朝に山中湖でワカサギの穴釣りをしたりしました。今考えると40年前の冬の山中湖は凍結していましたね。メカ好きな僕は当然クルマもフネも大好きで、そのころからジェットスキーをきっかけに、オフはいつもボートに乗るようになりました。そのうちにボートを楽しむ一環として必然的にボートフィッシングが始まり今に至っています。だから僕の場合、釣りがしたくてボートに乗るようになったのではなく、ボートで過ごす手段として釣りが始まりました。そしてなかなか思うように魚を釣ることができないのでどんだんのめり込んでゆきました。



好きな釣り、対象魚

釣りのフィールドは駿河湾です。駿河湾は魚種の豊富さでは日本一ではないかな？はじめのホームポートはアクセスのよい沼津でしたが、メジマグロやカツオ釣りにハマってだんだん遠くに足を伸ばすようになり、今はポイントに近い静岡を拠点にしています。春はサワラ、夏はメジマグロやカツオを追い、冬場はアマダイやアカムツを狙います。他にも真鯛のタイラバ釣りやタチウオのテンヤ釣りなど、駿河湾は本当に多彩で飽きることはありません。最近特にハマっているのはアカ



ムツで、水深250m前後をホタルイカの餌釣りで狙います。深場の釣りは難しく面白いですね、最近は友人に誘われてアカムツのルアージギングにも挑戦しています。基本的にフィッシュイーターなので美味しい魚がメインで、ゲームフィッシュには興味が湧きません。こんな風を書くときぞかしたくさん釣っているように見えますが、自分の食べる分以上釣れたことが無いのも悲しい自慢です。

釣りの魅力



釣りの世界は実業の反対側に位置しているのも、完全に気持ちの切替ができて癒されます。それでいて大好きなフネに乗って、機械いじりや工作もできる理想的な環境です。いつ？どこで？なにが釣れるの？天気は？時間は？潮は？水温は？水深は？どんなタックルがいいの？餌はなに？ルアーは？と、次から次へと疑問が生まれ、おいしく食べるために絞め方、さばき方にも拘り、包丁をそろえ、砥石もそろえ、調理の仕方を研究し…などなど夢中になって童心に帰れるところが魅力ですね。

LOVE BLUE委員会からのお知らせ

今年度も会員企業の皆様、参加企業・団体の皆様のご理解とご協力のもと、つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業は、日本全国において公平に優先三事業（水辺をキレイに、サカナを守ろう、フィールドを広げよう）を推進して参ります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

広尾町 村瀬優 町長へ（一社）日本釣用品工業会 小島忠雄 LOVE BLUE委員長が表敬訪問

つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業の優先三事業の中で、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動を事業開始の2013年度から実施しております。その中で広尾町からご要望を賜り、十勝港を2014年度から2020年度までの8年間 合計33日間実施してきました。

これを受け、2021年12月14日、北海道広尾町でのLOVE BLUE事業実施へのご協力の御礼と感謝状の授与、今後の更なる関係構築に向け、（一社）日本釣用品工業会 小島忠雄 LOVE BLUE委員長（同会顧問）が広尾町 村瀬優 町長への表敬訪問を行いました。

村瀬町長からLOVE BLUE事業実施への御礼とともに、LOVE BLUE事業の素晴らしさや社会貢献活動を実施している素晴らしさに対しても深く感銘を受けておられました。

小島委員長から、「私どもが実施しております水中クリーンアップ活動は、やらせていただくところが無いと出来ませんので。」というお話に対しても、村瀬町長から「やらせていただくという姿勢が素晴らしいです。」とお言葉をいただきました。



左から、村瀬優広尾町町長、小島忠雄LOVE BLUE委員長

LOVE BLUE プロダイバーによる水中クリーンアップ活動

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は、（10月から12月）では新規実施場所 4 箇所を含む、1道12県で65日間実施（2021年度累計：1道12県65日実施 12月末現在。）

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、4月から9月の活動を延期しておりましたが、10月より都道府県を跨いだ移動制限の解除に伴い、水中クリーンアップ活動を開始致しました。

今後も社会情勢などを見極めながら、引き続き、安全作業を最優先に、ご関係の皆様と連携しながら実施して参ります。

10月～12月までの実績

期間	実施日数	実施場所
10/21～10/25	5日間	福井県坂井市 崎漁港
10/30～11/3	5日間	北海道島牧村 厚瀬漁港
11/5～11/9	5日間	北海道岩内町 岩内港
11/11～11/15	5日間	北海道泊村 泊漁港
11/20～11/23	4日間	富山県黒部市 黒部漁港
11/20～11/24	5日間	宮城県石巻市 石巻漁港
11/25～11/27	3日間	石川県金沢市 金沢港金石地区船溜
11/27～11/28	2日間	山形県鶴岡市 由良漁港
11/29～12/1	3日間	山形県鶴岡市 堅苔沢漁港
11/30～12/4	5日間	神奈川県平塚市 平塚漁港新港
12/4～12/7	4日間	岐阜県海津市 東大江川
12/10～12/12	3日間	愛媛県伊方町 田ノ浦漁港
12/12～12/14	3日間	沖縄県読谷村 都屋漁港
12/15～12/18	4日間	高知県土佐市 宇佐漁港
12/21～12/25	5日間	徳島県鳴門町 亀浦漁港
12/22～12/25	4日間	岡山県瀬戸内市 牛窓港



北海道島牧村 厚瀬漁港



北海道岩内町 岩内港



北海道泊村 泊漁港



山形県鶴岡市 堅苔沢漁港

LOVE BLUE 専門機関と連携した放流事業

専門機関と連携した放流事業では今年度も引き続き、釣り人の皆様に喜んで頂ける魚種を放流しております。

県	魚種	放流尾数	放流場所	放流日
大阪府	キジハタ	1万尾	堺市出島漁港 堺泉北港	9月27日 10月14日
大分県	イサキ	5万6,200尾	佐伯市深島沖 波当津沖	10月7日
長崎県	カサゴ	1万7,500尾	脇岬港岸壁 為石漁港岸壁 網場湾内 大村湾	10月11日 10月23日 11月17日
	クエ	8,000尾	伊王島港地先 江ノ島沖合	11月25日 12月14日



大阪府 キジハタ



大分県 イサキ



長崎県 クエ

水産庁後援 つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）

水産庁後援事業として、全国からの応募受付（期間6/21～9/30）を終了し、2021年度採択団体が決まりました。尚、応募要領は水産庁から各都道府県担当部局、全国内水面漁業協同組合連合会から各都道府県内水面漁業協同組合連合会等、さらに、中央水産研究所内水面センターから各都道府県水産試験場へ配布・周知されておりました。

2021年度採択団体

採択番号	事業主体	実施地
019	津風呂湖漁業協同組合	奈良県 津風呂湖
020	日田漁業協同組合	大分県 大山ダム
021	網走漁業協同組合	北海道 瀧沸湖

地球環境基金 企業協働プロジェクト LOVE BLUE助成

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金と連携したLOVE BLUE助成では、本事業で採択された水辺の環境保全を目的に活動する11団体（2015年度助成開始以来累計51団体）が、各地で活発に活動されています。各団体の皆様からは「LOVE BLUE助成のおかげで、より充実した活動が行えており、釣り人の皆様に深く感謝します！」とお喜びのお言葉をいただいております。引き続き、水辺を守る皆様と連携しながら展開して参ります。



11月7日（日）宗像フェスCSR推進実行委員会（福岡県）



11月7日（日）宗像フェスCSR推進実行委員会（福岡県）



12月5日（日）一般社団法人スピリッド・オブ・セイラーズ（神奈川県）



12月5日（日）一般社団法人スピリッド・オブ・セイラーズ（神奈川県）

規格・安全委員会からのお知らせ

ライフジャケット安全・啓発ワーキンググループ

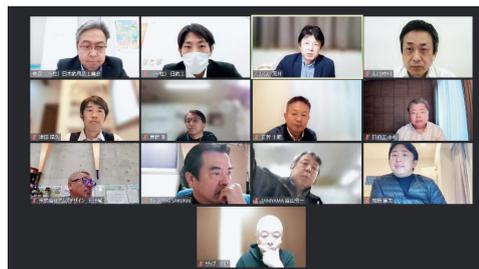
規格・安全委員会LJWG（高階才文リーダー）では、ライフジャケット着用の啓蒙から点検の重要性を伝えるにあたり、12月7日（火）に無料オンラインセミナーを実施致しました。当日は国土交通省、海上保安庁、日本小型船舶検査機構、LJWGから、ライフジャケットの着用の重要性・点検の重要性を講演いただきました。

当日視聴・アーカイブ視聴含め多くの方にご参加いただきました。
引き続き、着用の啓蒙や点検の重要性を伝える活動を実施して参ります。

広報・組織委員会 組織強化WGからのお知らせ

広報・組織委員会（櫻井孝行委員長）、組織強化WG（荒井一郎リーダー）では、会員企業の皆様の経営基盤のサポート並びに有用情報の発信に一層取り組むことを目的に、組織・強化ワーキンググループを毎月開催し、鋭意検討を致しております。その中で、11月15日（月）会員企業の皆様と第1回目の意見交換会を実施致しました。

今後も継続して、会員企業の皆様のお役に立てるよう取り組んで参ります。



会員向け初回無料法律相談の実施

会員の皆様へ、初回無料にて法律相談をご利用頂けるサービスのご提供を行っております。初回無料法律相談の詳細は、別添資料をご覧ください。

広報・組織委員会 広報拡大WGからのお知らせ

広報拡大WG（河原也寸志リーダー）では、アウトドアとの連携施策として、釣りとの親和性が高いと思われるアウトドア層に、釣りの面白さを伝えるため、あした、釣り行こ！通信が、各地で開催されている「OUTDOOR PARK」に出展しています。

この度、11月13日（土）・14（日）の2日間、埼玉県比企郡滑川町 国営武蔵丘陵森林公園にて開催された、「OUTDOOR PARK in SAITAMA」に出展しました。当日はファミリー層が多く来場（2日間合計18,379名）し、あした、釣り行こ！通信が行った釣り体験キャッチ&イート、釣りスクラリー（ルアーペインティング、キャストイング体験）などのイベントには、お子様だけではなく、大人の皆さんも参加されました。

当日会場では、当WGで作成した「初めての釣りガイドブック」や当工業会が作成した「すきすきフィッシング」を参加者に配布したところ大変好評でした。



釣りスクラリー ルアーキャストイング



釣りスクラリー ルアーペインティング



キャッチ&イート ホンモロコ釣り

海外戦略プロジェクトからのお知らせ

海外戦略プロジェクト（高階義尚リーダー）では、会員の皆様の海外進出にお役に立てるような情報提供を企画しております。当工業会会員専用ページには、タックルトレードワールド誌の「DOING BUSINESS WITH... Collection」（25か国の情報）を掲載しております。ぜひご高覧ください。

なお、会員専用ページへのアクセス方法は、事務局までお問い合わせください。

第37回理事会開催報告

第37回理事会は、令和3年11月25日（木）14：00より、日本フィッシング会館及びオンラインにて開催し、下記の議案が承認されましたので、概要をお知らせいたします。

議案審議

第1号議案 JAF実行委員会

(1) 「釣りフェスティバル2022」オンライン開催に関する件

第2号議案 委員会活動報告に関する件

- (1) LOVE BLUE委員会報告
 (2) JAF実行委員会報告（第1号議案を持って割愛）
 (3) 規格・安全委員会報告
 (4) 市場調査委員会報告
 (5) 広報・組織委員会報告
 ① 広報拡大WG
 ② 組織強化WG

第3号議案 プロジェクト活動報告に関する件

- (1) 情報収集分析プロジェクトに関して
 (2) 海外戦略プロジェクトに関して

第4号議案 令和3年度中間決算監査報告に関する件

第5号議案 会員代表者変更 及び 入・退会会員に関する件

第6号議案 (一社)日本釣用品工業会 後援名義使用許諾申請に関する件

第7号議案 その他報告承認事項に関する件

- (1) 令和4年度(2022年度)会議開催日程(案)に関する件
 (2) ロイヤルアングラ賞 2021に関する件
 (3) コンプライアンス・セミナーに関する件
 (4) その他

会員情報

〈会員代表者変更〉

株式会社タカタ

〒768-0066 香川県観音寺市昭和町3-3-5
 新会員代表者：代表取締役社長 高田 耕作 氏

ヤマハ発動機株式会社

〒438-0025 静岡県磐田市新貝2500
 新会員代表者：マリン事業本部マーケティング統括部
 マーケティング部
 国内Grグループリーダー
 船倉 嘉一郎 氏

〈会員住所変更〉

株式会社アピア

新住所：大阪府大阪市西区新町2-17-10



事務局だより

◆本年もどうぞよろしくお願い致します。新型コロナウイルスによる影響によって、何かと不自由な日々が続いておりますが、事務局一同、当工業会の各事業の推進と活性化を図ってまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆この度、1月5日に松田浩二氏が入社しました。今後暫くは、職務上必要とされる知識や技能を高めるために様々な経験を積んで頂くこととなります。松田氏を迎え、従業員一同より一層の努力をしてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



◆「釣りフェスティバル2022オンライン」へのご出展・ご視聴ありがとうございました。お陰様で多くの会員の皆様にご出展いただき、盛況のうちに無事終了することができました。アーカイブは会期終了後1か月をめでに公開いたしております。

◆「第25回 釣用品の国内需要動向調査報告書」を2月1日に発刊いたします。業界動向の把握と将来への戦略立案にご活用いただけますと幸いです。調査報告書作成にご協力いただいた、会員企業の皆様、製造・流通関連の皆様、業界関連の皆様、そして市場調査委員会の皆様には改めまして御礼申し上げます。

JAFTMA
 JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

一般社団法人
日本釣用品工業会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館5F
 TEL 03 (3555) 0101 (代表) FAX 03 (5542) 2929 <http://www.jaftma.or.jp/>